

校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和元年 9月23日 (月) 南日本新聞

本校の1・2年普通科の「きららの楽校」での取組について、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

薩摩中央高

“関係人口”増やそう

地域資源で企画づくり



さつま町の薩摩中央高校が、今春オープンした交流拠点「きらら

の楽校」を中心に、地域外から町に関わる「関係人口」を増やす企画づくりに取り組んでいる。19日は、生徒らが楽校と周辺の観光名所を見学、アイデアの材料集めにいそしんだ。県の助成を受けて白

男川区公民館が主催する「ふるさとよかところ発信プロジェクト」の一環。県内各地でまちづくりを携わる地域プロデューサー市村良平さん(32)アドバイスのもと、同校普通科1、2年生が同区内の観光ルートなどを考え、2月までに住民らへ提案する。

同日、生徒28人が旧白男川小学校を改装した楽校や史跡を散策。同町名物の浅蒸し茶をつくる柳田製茶では「料理でも使えないか」「収穫体験ができる時期はいつごろか」と質問した。2年の松山達彦さん(16)は「知らないことも多く、企画づくりのヒントになった」。引率した同区公民館の久徳竜也さん(43)は「若者の新しい発想をいかしてほしい」と期待した。今後は、生徒の企画案を精査し、生徒同士の体験会を開く予定。(荒川卓也)



企画立案へ話し合う薩摩中央高校の生徒ら
|| さつま町白男川